

核ビーム物性学研究室

(京都大学原子炉実験所 粒子線基礎物性研究部門)

<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NBMP/>

教授	大久保嘉高	Tel:072-451-2464	e-mail:ohkubo@rri.kyoto-u.ac.jp
准教授	谷口 秋洋	Tel:072-451-2421	e-mail:taniguti@rri.kyoto-u.ac.jp
助教	谷垣 実	Tel:072-451-2476	e-mail:tanigaki@rri.kyoto-u.ac.jp

2009年運転再開予定の5MW研究用原子炉(ウラン燃料の低濃縮化作業中)を用いた不安定核ビームの生成と、これを使った原子核物理と物性物理分野にまたがる学際研究

不安定核を作る

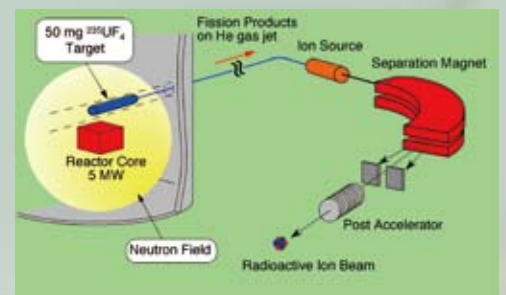
原子炉で大量に発生する中性子をウランに照射すると核分裂を起こすことができます。重い原子核ほど中性子を過剰に持っているため、加速器からのビームでは生成が困難な中性子が過剰な不安定核を容易に得ることができます。



運転中の原子炉。青白い光はチェレンコフ光

不安定核をビームにする

得られた中性子過剰な不安定核をオンライン質量分離器 (KUR-ISOL:Kyoto University Reactor Isotope Separator On-Line) で目的の原子核のみ分離したビームとして取り出します。通常 30 keV、後段加速器と組み合わせて最大 150 keV まで加速可能です。



KUR-ISOLの概念図

不安定核を研究する・利用する

ビームとなった不安定核を実験装置まで輸送し、未知のアイソトープの探索や、 β 線・ γ 線の精密測定と電磁気モーメント測定を通じた核構造の研究を行います。さらに、電磁気モーメントのよく判った不安定な原子核を様々な物質(超伝導体、強磁性体、強誘電体など)に注入し、物質の電子構造の解明を行います。



KUR-ISOLビームラインと実験装置

さらに…

原子炉実験所では加速器駆動未臨界炉(陽子加速器のビームで作った中性子で駆動する原子炉)の基礎実験プロジェクトを進めています。我々のグループも加速器の建設の中心的な役割を担ってきました。将来的にはこの加速器からの陽子ビームを利用して不安定核を生成し、従来の核分裂による手法と組み合わせ、研究対象となる不安定核の領域を広げたいと考えています。



建設中の150 MeV陽子FFAG加速器